

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1791400011		
法人名	有限会社共永		
事業所名	グループホームつつじ		
所在地	石川県河北郡津幡町字川尻ツ101		
自己評価作成日	令和4年10月19日	評価結果市町村受理日	令和5年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)エイ・ワイ・エイ研究所
所在地	金沢市無量寺5丁目45-2 サンライズⅢ106号
訪問調査日	令和4年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、業務改善を行い無駄を省くことにより利用者へ手厚く関わりが持てるようにしている。また家族の思いは丁寧に受け止め利用者の思いとすり合わせ良好な関係を築けるようこまめに連絡をとって安心できるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、今年8月から組織が変わり、新たな体制での運営を行っているが、職員、利用者の多くは以前と変わらず生活を続けており、「ゆっくり・のんびり・楽しく」というホームの理念も、変わらず掲げている。理念に沿って職員は、職員のペースではなく、利用者にあわせた関わりや話し方を大切にしながら、日々の支援に取り組んでいる。日常の何気ない会話や時には個別に話を聴く中で、利用者個々の「思い」や「希望」を引き出し、介護計画には、本人の「〇〇したい」等の発言に注目し、「本人の好きな事・出来る事」にも重点を置いた無理のない、より具体的な内容を位置づけ、日々の支援に活かしている。利用者にあわせた対応の徹底を図る中で、ホーム全体で身体拘束をしないケアの実践や一人ひとりの尊厳の確保にも取り組み、気になる場面があれば、その都度、職員同士で声をかけあうようにしている。新体制となり、まだ地域との交流やフロアミーティング、各種会議の開催等が十分にできていないところだが、今後、これまでと同様の形で取り組んで行く予定としており、継続するもの、見直していくものを検討しながら進めていく意向である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践するよう努力している。	「ゆっくり・のんびり・楽しく」を理念として掲げ、職員のペースではなく、利用者にあわせた関わりや話し方を大切にしながら、日々の支援に取り組んでいる。理念は玄関に掲示されている。今年8月から組織が変わり、新体制となったが、今月からフロアミーティングを再開し、これまで同様、継続的に職員への周知を図っていく意向である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦につき現在は対面交流は出来ていない。	今年度も中止や規模縮小が続いたが、例年は、祭礼時の獅子舞招待、文化祭への出展・見学、地区防災訓練への参加、地区運動会の見学等を通じ、地域との交流を図っていた。新体制となっても、今後の感染状況をみながら、落ち着けば、同様に積極的な地域との交流を図っていく意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ渦につき訪問等は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦につき現在は電話やアンケートで意見を聞きサービス向上に活かしている。	新体制となり、まだ会議の開催ができていないが、今後、これまでと同様の形で開催を予定している。通常は、区長、民生委員、家族代表・利用者代表、地域包括・町担当職員等をメンバーとし、年6回開催していた。ホームの現状・活動報告後、様々な内容で意見交換を行い、メンバーの助言等をサービスの向上に活かしていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当職員とメールや電話で情報交換を行い協力関係を築いている。	日々、町担当者とのメールや電話、訪問による相談、情報交換を行い、良好な協力関係の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より周知徹底し身体拘束をしないケアをしている。	職員個々に意識し、ホーム全体で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。スピーチロックについても、その都度、利用者にあわせた対応を促し、職員への注意喚起を行っている。新体制となり、まだ身体拘束等適正委員会の開催ができていないが、今後、これまでと同様の形で開催を予定している。	今後の身体拘束等適正委員会において、グレーゾーンも含めて事業所としての方針や対応を検討していくことに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を持ち、個々が注意しながら日頃の業務にあたっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少なく、今後活用できるように取り組んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をすることで家族より信頼を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や意見は取り入れて反映するよう努めている。	現在、家族との面会は玄関フロアにて行っている。家族が面会等のため来所した際、意識してコミュニケーションをとり、意見や要望を聞くようにしている。又、定期的に電話やLINEを用いて普段の様子や受診結果等を伝え、家族の意見・要望を引き出すようにもしている。	家族に対する個別の便りの送付を再開することに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、または個別で対応し反映している。	職員の意見や提案は、積極的に出してもらい、取り入れながら、より良いサービスを目指していきたい考えである。今後、フロアミーティングを再開し、そのような機会も活用し、職員の意見を取り入れていく意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握しながら各自の意識向上ややりがいが持てるように職場関係を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では実践によりトレーニングの機械を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後はグループ内で人員交流や実地体験に取り組んでいく。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早い段階で不安や要望を聞き安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を伺い関係性を作れるよう細目に連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に必要な支援を最優先しその後他のサービスも含めた対応を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができることは行ってもらい家庭的な暮らしを感じてもらえるよう関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	短い時間の対面であったり、家族と直接電話で話をしてもらうなど関係性を築けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と職員との会話のなかで生活歴に共感し孤立感を生まないように努めている。	本人との会話の中で、以前の暮らしや馴染みの関係の把握に努めている。場所は玄関フロアに限定はしているが、家族との面会を継続し、外出も家族の協力を得ながら続けている。飲食店に行くことは控えてもらっているが、ドライブに出かけたり、自宅や友人を訪ねる等して関係継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の間に入り共通の話題等を提供し互いに関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、家族や関係各所と情報共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望意向を把握し困難なばあいでも本人の気持ちに寄り添えるよう努めている。	フロアでレクリエーションを行う際やテレビを観てリラックスしている場面で、声かけを行い、思いや希望を聴くようにしている。より詳しく話をするような場合には、談話室や居室で思いを聴いている。意思疎通が難しい場合には仕草・表情等から「思い」をくみ取り、本人の気持ちに寄り添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関わりの中から新しい情報を引き出せるよう日々努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報共有を徹底し現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	すべての関係者の意見を反映した介護計画を作成している。	問題に目を向けるのではなく、本人の「○○したい」等の発言に注目し、「本人の好きな事・出来る事」を重視した介護計画を、無理のない、より具体的な内容で作成している。計画作成・モニタリング・内容見直し時には職員全体の意見も反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録で情報共有しそれにもとずき計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化を早急に察知し必要なニーズに対応できるようなサービス提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部交流は出来ていないが町の行事等に支援したり地域との共同を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診と主治医専属薬局、事業所と連携を図り本人と家族の希望を最優先にした医療を受けられるようにしている。	ホーム提携医や薬局との連携を図り、本人、家族の希望に応じた受診を支援している。月2回の訪問診療の際には、職員が普段の様子等を伝え、適切に医療が受けられるよう支援している。診察の結果は、その都度家族にも伝達している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内での情報共有を行い利用者が適切な医療や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換を行い関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とも話し合いをし状況説明をしながら方針を共有し主治医と共にチームで取り組んでいる。	予め終末期の在り方について意向を確認しているが、体調変化等があれば、改めて家族の思いを確認し、医師の判断を仰ぎながら、今後の方向性(ホームでの看取り、入院治療、特養への移行等)を話し合っている。条件(家族の希望、主治医の協力、医療依存度が低い等)が整えば、終末期支援まで行う方針となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア会議等で再度確認し実践に努めている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急連絡網の活用や急変対応の体制は整っている。	緊急時の対応マニュアルを整備している。緊急時には、看護職員やホーム提携医に24時間、相談・指示を仰ぐことができる体制が整えられている。	特に生命にかかわる緊急時(誤嚥・窒息時等)を想定した学習・ロールプレイ訓練の実施に期待したい。
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	支援体制は確保されている。	ホーム提携医による医療支援体制を確保している。又、地域の介護老人福祉施設とは契約で支援体制を確保している。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	対応したものとなっている。	夜間帯は各ユニット1名の夜勤者を配置し、ホーム内で計2名の複数体制となっている。平屋建ての利点を活かし、困ったことがあれば協力し合っている。緊急連絡網による管理者への相談体制や近隣在住職員の応援体制も整備されている。ホーム提携医による24時間対応の体制も整えられている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練等を行っていく。	災害マニュアル(フローチャート図)を整備し、年2回、総合避難訓練を実施している。ハザードマップは休憩室に掲示し、職員への意識づけを図っている。地域の協力が得られるよう、これまでの運営推進会議では、区長を交えて災害時の対応について検討したり、地区防災訓練に管理者が参加したりしていた。備蓄品(水・缶詰類等)はリスト化し、適切に保管・点検している。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	整備されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を保護することを大切にした対応をしている。	年長者への接し方や利用者個々の性格を考慮した言葉かけに配慮している。基本的に呼称は、名字で「〇〇さん」と呼ぶこととし、同じ名字のため下の名前で呼ぶ際には、予め確認をしている。おむつ交換の際の扉の開閉や同性介助等、プライバシーの確保にも注意を払っている。気になる場面があれば、その都度、職員同士で声をかけあうようにしている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いが伝えられるような関わりを日頃から行っている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人ペースを優先した支援を行っている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族からの情報で本人の好みが好きだ衣類の選択をしている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆同じ内容だが間食で好みのバランスを心がけている。後片付けやテーブル拭き等を行ってもらっている。	業者が献立を作成し、食材が納品される仕組みとなっている。食事が利用者の楽しみとなっており、今後、自分たちで料理を作ることや季節感を感じることができる食事にも努めていきたいと考えている。利用者の出来る事でテーブル拭きや後片付けに取り組んでもらっている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に応じた量の確保や形状を検討した支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアをしている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ずつの排泄パターンの把握に努め必要時声をかけて誘導している。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表も活用しながら、個々の排泄パターンを把握し、適宜、さりげなく誘導の声かけを行っている。夜間の安眠を大切しており、夜間帯のみ車いすでの誘導を行う利用者がある等、利用者の状況に応じた個別対応を行っている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や水分補給の徹底を行っている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	湯舟に入りたい人やシャワー浴が好きな人など個別に対応できるようにしている。	日曜日以外はお風呂を沸かし、1人あたり週2～3回を基本に、利用者の習慣や要望(お湯の温度、シャワー浴等)に沿った入浴を支援している。お風呂嫌いの方には無理強いせず、本人のタイミングで入浴できるよう別の日に改めてお誘いする等柔軟な対応、工夫を行っている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めずにそれぞれのペースで急速して頂いている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人にも説明し内服薬の确实投与と副作用による身体症状には気を付けている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ渦でもあり外出は前のようにできていないが本人の好む娯楽		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族へ依頼しドライブや自宅へ行くなど本人の希望に沿った場所へ出かけてもらうようにしている。	天気が良い日は気分転換を兼ね、気軽に戸外(散歩、玄関ベンチ、ウッドデッキでの外気浴等)に出向いている。又、家族の協力を得ながら、ドライブや自宅等への外出も行っている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる人には所持してもらいスタッフと近くの店へ行き自分の好きなものを購入できるように支援している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文章、通信は自由となっており必要であればポストの投函もおこなっている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく季節感が出せるように、日中と夜、気温が感じられるように工夫している。	利用者が快適に過ごせるよう、温度管理、朝・昼・夕の換気には十分に配慮している。冬季は感染対策として、湿度管理(加湿器使用等)にも気を配っている。落ち着いた生活空間となるよう、過度な飾りつけは極力控え、利用者の作品は掲示コーナーに飾っている。季節感を大切にし、職員が差し入れてくれる季節の花をホーム内に飾っている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置きいつでも座り落ち着ける場所を自由に使えるようにしている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きなものの持ち込みが自由で写真を飾る、使い慣れたものを持ってきてもらうなどしている。	入居時に馴染みの物(タンス、枕等)や本人が安心できる物(ぬいぐるみ、家族の写真等)を自由に持ち込んでもらっている。ベッドや家具は利用者の思いに沿って配置している。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰な見守りや援助せず能力に応じたことを行ってもらい自立した生活を送れるようにしている。		